



東北大学

ISSN 2185-5196

東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2011



仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点調査区から望む仙台市街

**東北大学埋蔵文化財調査室
年次報告2011**

東北大学埋蔵文化財調査室 年次報告2011

目次

I. 巻頭言	1
II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要	2
1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査	2
2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設	5
3. 運営委員会・調査部会	6
III. 2011年度（平成23年度）事業の概要	7
1. 埋蔵文化財調査の概要	7
(1) 川内北地区の調査	8
(2) 川内南地区の調査	13
(3) 青葉山北地区の調査	15
(4) 富沢地区の調査	15
2. 遺物整理作業	19
3. 年次報告・調査報告の刊行	20
4. 保存処理事業	21
5. 資料保管状況	21
6. 研究活動	21
(1) 受託研究・共同研究・研究協力等	21
(2) 学会発表等	23
(3) 科学研究費採択状況	23
7. 教育普及活動	23
(1) 非常勤講師	23
(2) 授業など教育活動への協力	23
(3) 保管資料の貸出	23
(4) 外部からの派遣依頼等	23
(5) 広報活動	24
8. 東日本大震災による被災文化財の救援活動	26
《引用・参考文献》	
IV. 資料	
1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程	30
2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿（2011年度）	32
3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿（2011年度）	32
4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧	33

I. 巻頭言

「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011」を刊行いたします。

東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。埋蔵文化財調査室では、「東北大学埋蔵文化財調査室調査報告」と「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告」という、二種類の報告書を刊行しています。

施設整備などに伴う記録保存のための本調査については、その発掘調査報告書を、「東北大学埋蔵文化財調査室調査報告」というシリーズ名で、各調査ごと刊行しています。「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告」は、埋蔵文化財調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のために、毎年度ごとに報告しています。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2011年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、および調査室が実施したその他の事業について概要をとりまとめて報告いたします。2011年度は、前年度末の3月11日に発生した東日本大震災により、通常とは大きく異なる業務に忙殺される一年間となりました。

2011年度に予定していた地下鉄東西線川内駅前整備に伴う調査は、震災の影響で開始時期が大きく遅れることとなりましたが、9月には開始することができました。その一方で、震災に伴う仮設校舎や応急学生寄宿舎の建築など、緊急の復旧工事に対応することが必要となりました。さらに埋蔵文化財調査室では、文化庁が呼びかけて結成された東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会からの協力依頼に応じて、被災文化財レスキュー活動に全面的に協力し、宮城県内の各地で進められたレスキュー事業に参加することとなりました。被災地に所在する大学の機関として、専門的知識を活かし、地域の歴史・文化を守り継承して、復興へつなげていくために、今後も協力していきたいと考えております。

これら事業の実施にあたっては、経験のないことも多い中、学内外の関係機関や関係者の多大なご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申し上げるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香

II. 東北大学埋蔵文化財調査室の概要

1. 東北大学構内の遺跡と埋蔵文化財調査

東北大学には、各キャンパスに加え多くの研究施設があり、これらの構内には多くの埋蔵文化財が存在する(表1、図1)。特に川内地区は、ほぼ全域が仙台城跡の二の丸地区と武家屋敷地区にあたっている(図2)。

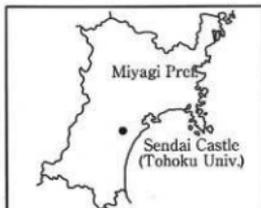
現在の日本では、これらの遺跡(埋蔵文化財包蔵地)において掘削を伴う工事を行う場合、文化財保護法により届出が義務づけられている。工事の掘削で遺跡が壊される場合には、計画の中止や変更により遺跡を現状で保存することが、文化財保護の観点では最善である。しかし現実には、現状保存は難しい場合が多い。そのため、発掘調査を行い記録を作成することで、次善の策とする記録保存という方法が取られている。記録保存のための発掘調査は、経費を原因者が負担した上で、地方公共団体が実施するのが基本である。

構内に遺跡が存在する大学では、施設整備事業などの工事に先立つ記録保存のための調査を実施する組織として、大学内部に埋蔵文化財調査を担当する組織を設けることが進められてきた。考古学や関連する学問分野の専門研究者が大学内部に所属している場合には、学術的に十分な検討がなされるという社会的信頼に基づき、大学独自の埋蔵文化財調査組織が設けられ運営されている。学内に調査組織を設けていると、結果的に迅速な調査と施設整備事業の円滑な推進が図られるという側面もある。

東北大学においても、同様の理由から、1983年度に東北大学埋蔵文化財調査委員会が設置された。これ以降、東北大学構内での施設整備等に伴う埋蔵文化財調査については、調査委員会の実務機関である埋蔵文化財調査室が実施してきた。1994年度には、調査委員会を改組し、学内共同利用施設としての埋蔵文化財調査研究センターが設置された。2006年度には、特定事業組織としての埋蔵文化財調査室へ改組され、事業を引き継いでいる。

表1 東北大学構内の遺跡

所在地名	所在地住所	遺跡名	県道跡番号	時代	備考
川内1	仙台市青葉区 川内27-1・41他	仙台城跡	01033	近世	二の丸地区・二の丸北方武家屋敷地区・御炎林地区
	仙台市青葉区 川内122	川内古碑群	01386	鎌倉	弘安10年(1287)・正安4年(1302)他
青葉山2	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山B遺跡	01373	縄文・弥生 古代	
	仙台市青葉区 荒巻字青葉6-3	青葉山E遺跡	01443	縄文・弥生 古代	
青葉山3	仙台市青葉区 荒巻字青葉168-1	青葉山C遺跡	01442	旧石器	
富沢	仙台市太白区 神基一丁目101	戸ノ口遺跡	01315	縄文・弥生 古墳・古代	
川渡	大崎市鳴子温泉 大口字蓮田	上川原遺跡	36006	縄文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	丸森遺跡	36038	縄文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町	東北大農場2・3号畑遺跡	36098	縄文	
	大崎市鳴子温泉 大口字町西	町西遺跡	36106	弥生	
小泉沢	牡鹿郡女川町 小泉沢	小泉沢B遺跡	73021	縄文	宿舎裏の山林部分



- 1 : Ruin of Sendai Castle
- 2 : Kawauchi steles
- 3 : Kawauchi A Site
- 4 : Kawauchi B Site
- 5 : Sakuragaoka kouen Site
- 6 : Aobayama B Site
- 7 : Aobayama E Site
- 8 : Aobayama C Site
- 9 : Aobayama A Site
- 10 : Aobayama D Site
- 11 : Ashinokuchi Site



- 1 : 仙台城跡 2 : 川内古碑群 3 : 川内A遺跡 4 : 川内B遺跡 5 : 桜ヶ岡公園遺跡 6 : 青葉山B遺跡 7 : 青葉山E遺跡
- 8 : 青葉山C遺跡 9 : 青葉山A遺跡 10 : 青葉山D遺跡 11 : 芦ノ口遺跡 12 : 片平仙台大神宮の板碑 13 : 郷六日如來の碑
- 14 : 葛岡城跡 15 : 郷六城跡 16 : 郷六建武碑 17 : 沼田遺跡 18 : 郷六御殿跡 19 : 郷六遺跡 20 : 松ヶ岡遺跡
- 21 : 向山高臺遺跡 22 : 萩ヶ丘遺跡 23 : 茂ヶ崎城跡 24 : ニツ沢積穴墓群 25 : 萩ヶ岡B遺跡 26 : 八木山緑町遺跡
- 27 : ニツ沢遺跡 28 : 青山二丁目遺跡 29 : 青山二丁目B遺跡 30 : 杉土手(鹿除土手) 31 : 砂押屋敷遺跡 32 : 砂押古墳
- 33 : 富沢遺跡 34 : 泉崎浦遺跡 35 : 金沢沢古墳 36 : 土手内窟跡 37 : 土手内遺跡 38 : 土手内積穴墓群 39 : 三神塚遺跡
- 40 : 金山窟跡 41 : 三神塚古墳群 42 : 富沢窟跡 43 : 裏町東遺跡 44 : 裏町古墳 45 : 原東遺跡 46 : 原遺跡 47 : 八幡遺跡
- 48 : 後田遺跡 49 : 町道跡 50 : 神瀧山遺跡 51 : 御堂平遺跡 52 : 上野山遺跡 53 : 北前遺跡 54 : 佐保山東遺跡

図1 東北大学と周辺の遺跡

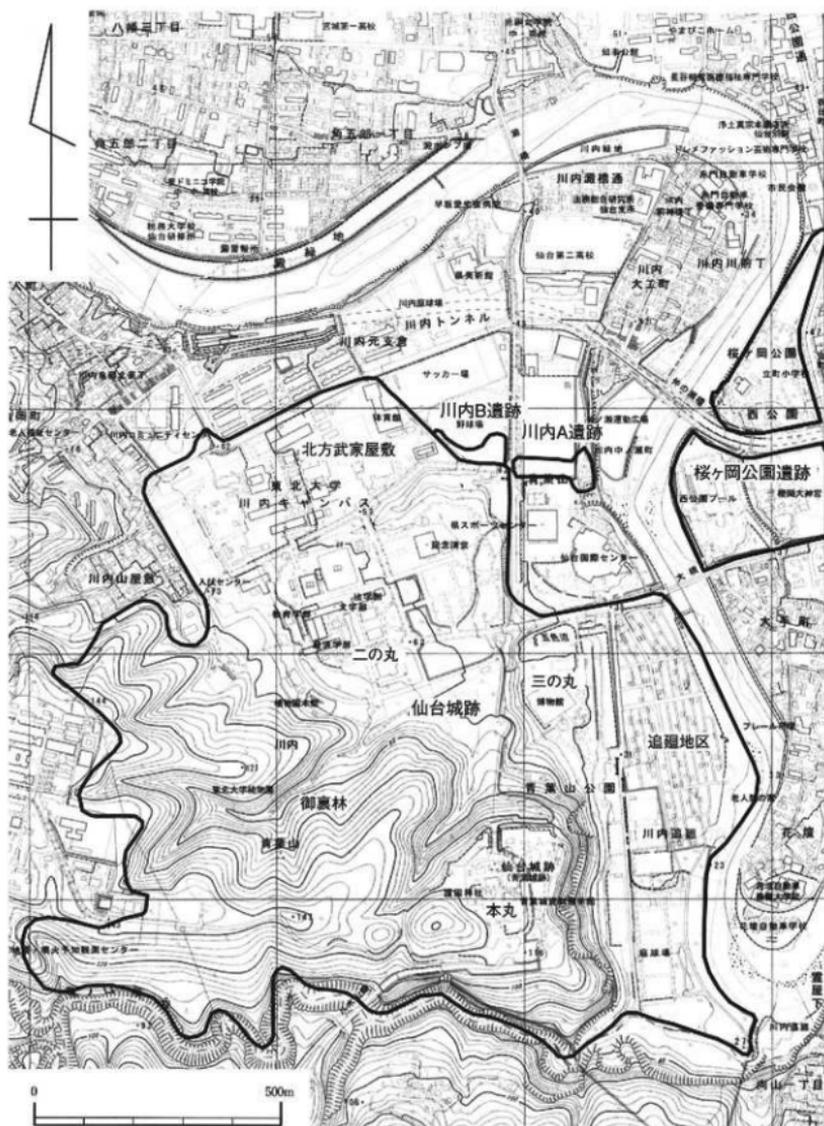


図2 仙台城と二の丸の位置

2. 埋蔵文化財調査室の組織と施設

埋蔵文化財調査室の職員は、併任の調査室長1名、文化財調査員3名（うち特任准教授1名、専門職員2名）、事務補佐員1名（時間雇用職員）、および整理作業を担当する作業員（時間雇用職員）からなっている。2011年度の埋蔵文化財調査室の職員は、表2の通りである。これ以外に、発掘調査を実施している期間は、発掘調査に従事する作業員（時間雇用職員）を雇用している。

埋蔵文化財調査室を運営するにあたって必要な経費は、埋蔵文化財調査室運営費として措置されている。内訳は、事務補佐員1名の人件費と、光熱水料、自動車維持費、消耗品費などである。

発掘調査については、事業費の中に組み込まれる形で、事業ごとに予算化されている。

調査終了後の整理作業と報告書印刷刊行費については、全学的基盤経費によって措置されている。整理作業に携わる作業員の賃金も、ここから支弁されている。

埋蔵文化財調査室の主要な業務は、調査委員会の設置以降、片平地区の生命科学研究所3階の一画を使用して行なってきた。2008年度に、生命科学研究所の建物の改修工事が実施されることとなり、埋蔵文化財調査室が置かれている区域は、コンクリートの強度の問題などから取り壊されることとなった。施設部などが入っている本部別館3（呼称整理により現在は本部棟4）の1階で、法科大学院が使用しているスペースがいづれ空く見込みであることから、最終的にはそちらに移転することとし、当面は埋蔵文化財調査室の保管倉庫の1階を改修して使用することとなった。2010年度に本部棟4の1階が空いたため、若干の改修工事を行った上で、2011年2月21日から24日にかけて引越作業を実施し、これ以降はここで業務を行っている。

本部棟4に移転した後の部屋面積は191.5㎡で、これに廊下を仕切って取蔵庫としている部分20.5㎡が加わる。室長室兼事務室、調査員室、作業室、予備室、取蔵庫からなっている。取蔵庫は、出土遺物の中でも、報告書に図示され、借用や調査依頼の多い資料についてはこちらで保管している。それ以外の遺物については、保存処理作業棟南側に置かれている取蔵庫において保管している。作業室は、実測やトレースなどの作業をはじめとする整理作業を行う部屋で、報告書などの文献を保管している書架も置いている。予備室は、将来的には、展示ケースなどを整備し、構内遺跡の発掘調査成果を展示紹介するコーナーとする予定である。

これ以外に、保存処理の作業は、2001年度に生命科学研究所の南側に設置された作業棟（プレハブ平屋建・79㎡）を利用している。また、ガレージの一部の31㎡を使用しており、調査室用の公用自動車を保管している他、保存処理用の大型水槽を設置している。発掘調査で使用する機材の一部も、ここで保管している。2003年度には、出土遺物の取蔵庫として保管倉庫（プレハブ2階建・202㎡）が作業棟の南側に設置され、専用の保管場所が確保された。

以上の片平構内の施設以外には、川内南地区に、発掘調査用の資材倉庫（プレハブ平屋建・58㎡）がある。

表2 2011年度埋蔵文化財調査室職員

職名	氏名等	備考
調査室長	文字研究科教授 阿子島 香	併任
	特任准教授 藤沢 敦	
文化財調査員	専門職員 飯田 恵子	
	専門職員 吉野 智剛	
事務補佐員	時間雇用職員 内海 幸一	埋蔵文化財調査室運営費を財源とした職員
整理作業員	時間雇用職員 5名 (通年3名・半年間2名)	全学的基盤経費を財源とした職員

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北大学にも多大な被害をもたらし、埋蔵文化財調査室でも被害が生じたが、全般に被害程度は軽微で、早期に復旧することができた。家具類の転倒防止措置や、棚への転落防止ベルト（タナガード）の設置が、被害の軽減に極めて効果的であった。

ただし川内南地区の資材倉庫は、老朽化していたこともあり、震災により建物の一部がゆがみ、床パネルが2枚はずれて落ちるなどの被害が出た。この資材倉庫は、1984年度に現場事務所として使用を開始し、翌1985年度に現在位置へ移転したものである。これまでに2回、改修工事を行い、資材倉庫として使用を続けてきたが、近年は老朽化が著しくなっていた。震災で受けた被害によって、ただちに使用が不可能となる状態ではなかったが、老朽化が激しいため改修を行って継続して使用することは難しいと判断された。いづれ撤去することを前提として、地下鉄東西線川内駅前広場整備に伴う、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）の調査を9月に開始する際に、倉庫内の機材を全て搬出した。調査において使用する機材は現場事務所へ運搬し、使用しない機材は片平地区へ移動した。

3. 運営委員会・調査部会

東北大学埋蔵文化財調査室では、運営に関する重要事項を審議する運営委員会と、運営委員会の下に埋蔵文化財調査に関する専門的事項を審議する調査部会が設置されており、委員会・部会の審議をもとに運営が進められている。通常は、運営委員会は年度当初に1回開催し、年間の事業予定・予算などの基本的事項を審議している。調査に関わる具体的かつ専門的な事項は、必要に応じて調査部会を開催して審議することとしている。

2011年度（平成23年度）は、運営委員会は1回開催した。運営委員会の開催月日と議事内容は、以下の通りである。例年開催している年度当初の運営委員会は、通常は4月ないし5月に開催している。2011年度は、3月11日に発生した東日本大震災の被害への対応などで、調査室の事務を担当している施設部が極めて多忙となり、委員会の開催準備が困難な状況が続いたため、やむを得ず7月に延期したものである。当年度の運営委員会から、審議事項と報告事項の区分と内容を整理し、前年度結果と当年度計画を合わせて審議するように変更した。なお、2011年度は、調査部会は開催されなかった。

埋蔵文化財調査室運営委員会

- 7月19日 審議事項
- (1) 平成22年度埋蔵文化財調査結果及び平成23年度の埋蔵文化財調査計画について
 - (2) 平成22年度調査室運営費決算及び平成23年度調査室運営費予算について
 - (3) 平成22年度の整理作業結果及び平成23年度の整理作業計画について
 - (4) その他

- 報告事項
- (1) 調査室の本部別館3（施設部棟）への移転について
 - (2) 東日本大震災の被害状況と対応等について
 - (3) 川内藪ホール展示スペース常設展示について
 - (4) 調査室ホームページの開設について
 - (5) その他

Ⅲ. 2011年度（平成23年度）事業の概要

1. 埋蔵文化財調査の概要

2011年度は、本調査1件、確認調査1件、立会調査12件を実施した。また、東日本大震災に関わる、復旧工事に関して、学内措置としての立会調査を6件実施した（表3）。

通常の立会調査は、2009年度途中から、東北大学埋蔵文化財調査室が実施する形となっている。周知の埋蔵文化財包蔵地での土木工事等のための発掘届出に対して、仙台市教育委員会より出される工事立会を通知する文書において、「立会については、事前に工事日程を提出の上、東北大学埋蔵文化財調査室が行い、工事終了後の写真提出をもって、その実施に代える」旨の指示がなされることとなった。これ以降、通知の指示に沿って、工事日程を事前に提出した上で、当調査室が工事実施時の立会調査を行うこととなった。

3月11日に発生した東日本大震災に関しては、3月25日付けの文化庁次長通知「平成23年度東北地方太平洋沖地震に伴う復旧工事に関する文化財保護法の規定の適用について」によって、道路やライフラインの復旧工事、被災建物などの撤去工事、緊急を要する復旧工事については、文化財保護法第93条及び第96条の規定による届出は要しないこととされた。この文化庁次長通知による取り扱いについては、4月11日付けで、仙台市教育局生涯学習部文化財課長から通知がなされた。東北大学では、損壊した建物の撤去工事に伴う文庫物の撤去、仮設校舎整備事業、住居が被災した学生のための応急学生寄宿舎整備事業が、この通知に該当する工事であった。これらについては、文化財保護法第93条の規定による届出を要しないこととなり、文化財保護法に基づく立会調査などは実施されないこととなったが、念のため学内措置としての立会調査を行うこととした。この震災復旧工事に伴う学内措置としての立会調査は、川内北地区と青葉山北地区において、6件実施した（2011-A～F）。

表3 2011年度調査概要表

調査の種類	地区	調査地点（略号）	原因	調査期間	面積 (㎡)	時期
本調査	川内北	マルチメディア総合研究棟西側 (BK14)	川内駅前広場整備工事	9/1～3/31 (※年度継続)	401	差替
確認調査	宮沢	宮沢宿舍舎身宿舎南側 (2011-13)	宿舍新築計画に伴う試掘調査	3/5-7-8-13-21-22	99	-
立会調査	川内南	図書館北東側 (2011-1)	5号井戸改修工事	4/8-11	-	-
	川内南	植物園研究棟前庭南側 (2011-2)	植物園本沢水門土管復旧後復旧工事	5/23	-	-
	川内南	植物園標本室南西側 (2011-3)	植物園法雨溝掘削工事	5/26	-	-
	川内南	図書館北西側 (2011-4)	光ケーブル架設設置用調査柱設置工事	7/12	-	-
	宮沢	職員宿舎東側 (2011-5)	宿舍器具取設工事	7/19	-	-
	川内南	植物園前庭南側給水管漏水復旧工事	8/30	-	-	
	青葉山	サイクロロン実験棟東側 (2011-7)	サイクロロンR1棟屋上設備改修工事	9/13	-	-
	川内北	ハンドボールコート東側 (2011-8)	多目的コート排水管改修工事	11/10	-	-
	宮沢	野球場北東側 (2011-9)	硬式野球部部室設置工事	12/6	-	-
	川内北	保育園南東側 (2011-10)	けやき保育園遊具照明灯取付工事	1/16・17	-	-
	川内南	中興義棟東側 (2011-11)	文科系中講義棟汚水管改修工事	2/15	-	-
	震災復旧工事に伴う立会調査 (学内措置)	川内南	植物園標本室南側 (2011-12)	植物園標本室屋外給排水管改修工事	2/22	-
川内北		合同研究棟南東側 (2011-A)	合同研究棟災害復旧工事に係る支那橋木柱換	4/20	-	-
川内北		テニスコート西側 (2011-B)	応急学生寄宿舎整備事業	6/1、7/1・4	-	-
川内北		国際交流センター南側駐車場 (2011-C)	仮設校舎整備事業	6/14、7/14・15	-	-
川内北		合同研究棟南西側 (2011-D)	仮設校舎整備事業	6/15	-	-
青葉山		地学棟西側駐車場 (2011-E)	仮設校舎整備事業	6/15、9/6・8、12/9	-	-
川内北		テニスコート東側駐車場 (2011-F)	仮設校舎整備事業	7/12、8/2-4	-	-

(1) 川内北地区の調査

川内北地区では、本調査1件、立会調査2件を実施した。東日本大震災に関わる復旧工事での立会調査は5件実施した(図3)。

・仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点(BK14・地下鉄東西線川内駅前整備に伴う調査)

仙台市高速鉄道(地下鉄)東西線の川内駅(仮称)の、駅前広場を整備する工事に伴う調査である。地下鉄東西線は、川内北キャンパスの北端に沿って路線が計画されており、2015年度の開業を目指して建設工事が進められている。この地下鉄東西線では、川内駅がマルチメディア総合研究棟の西側に予定されており、東北大学では、この川内駅の出入り口として駅前広場の整備を行うこととなった。この場所は、マルチメディア総合研究棟の途中に大きな段差があり、東側の低い部分の高さに合わせる形で、研究棟西側と南側の一段高い部分が削平されることとなった。マルチメディア総合研究棟の新営に伴う調査(仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点・BK7)では、段差の低い部分においては江戸時代の遺構面は既に削平されているが、段差の上側では江戸時代の遺構面が保存されていることが明らかとなっている(年報19)。そのため、工事で削平される高い部分を事前調査の対象とした。

当初は、2011年度の早い時期に調査を開始する予定で、前年度から準備を進めていた。しかし、東日本大震災による学内施設の被害に関して、施設部をはじめ関係部局が対応に追われていたため、調査の準備が行えない状況が続いていた。緊急の対応が一段落し、準備が整った2011年9月から、ようやく調査を開始することが可能となった。

調査予定範囲には、北側の地下鉄東西線の工事区域を横断するための歩行者や自転車用の通路があり、この通路につながる形で各方向へ通路が伸びている。これらの通路を確保しながら、発掘調査を実施する必要があった。そのため、調査区を分けて、通路を移設して確保しながら、順次調査を実施することとなった。

最初に、草地となっており、通路などとして使用されていない区域から、調査を開始することとした。ただし、草地の北側は、地下鉄東西線の工事で、一部が仮囲いで囲われて使用されていた。そのため、最初は調査が可能な範囲の250㎡を1区として、9月1日より調査を開始した(図4)。

地下鉄東西線の工事用の仮囲いを、工事施工範囲の際まで移設していただけることとなったため、1区の北側の87㎡を10月11～13日に重機で掘削して拡張し、この区域を2区と呼称した。これ以降は、1区・2区を合わせて調査を実施した。1区・2区の調査がおおむね完了した12月7日に、ラジコンヘリでの空中写真撮影を行った。翌12月8日から13日には、調査が完了していない1・2区の一部を残して埋め戻し、隣接する3区の重機掘削を行った。

地下鉄1区区域を横断する通路の延長部分は、幅8mの通路の内、東側4mを通路として残り、西側4m分の64㎡を先に調査することとし、これを3区とした。3区の重機掘削後、1・2区の調査の残りを進めつつ、3区の調査にとりかかり、12月末まで作業を実施した。越冬期の1・2月は、図面作成など補足的な調査を行うにとどめ、それ以外の作業は実施していない。3月1日より、3区の本格的な調査を再開した。3区の調査は3月22日で終了し、隣接する4区の調査に備えて埋め戻した。

2011年度には、1～3区の401㎡分の調査を終了し、全体調査予定面積の953㎡のうち、42.1%まで実施したこととなる。なお、南北通路の東側4m分については、通路東側の斜面部分を合わせた95㎡を4区とし、2012年度の4月に調査を実施している。第14地点の調査は、この2012年4月末で一旦中止し、課外活動施設新営に伴う仙台北城跡二の丸北方武家屋敷地区第15地点(BK15)の調査を、先行して実施することとなった。2012年4月末までの合計調査終了面積は496㎡となり、全体調査予定面積の52.0%まで実施したこととなる。残る457㎡については、第15地点の調査終了後に実施する予定である。

1～3区の調査では、西側ほど明治時代以降の削平が大きく、遺構の保存状態は良くなかった。掘立柱柱穴、

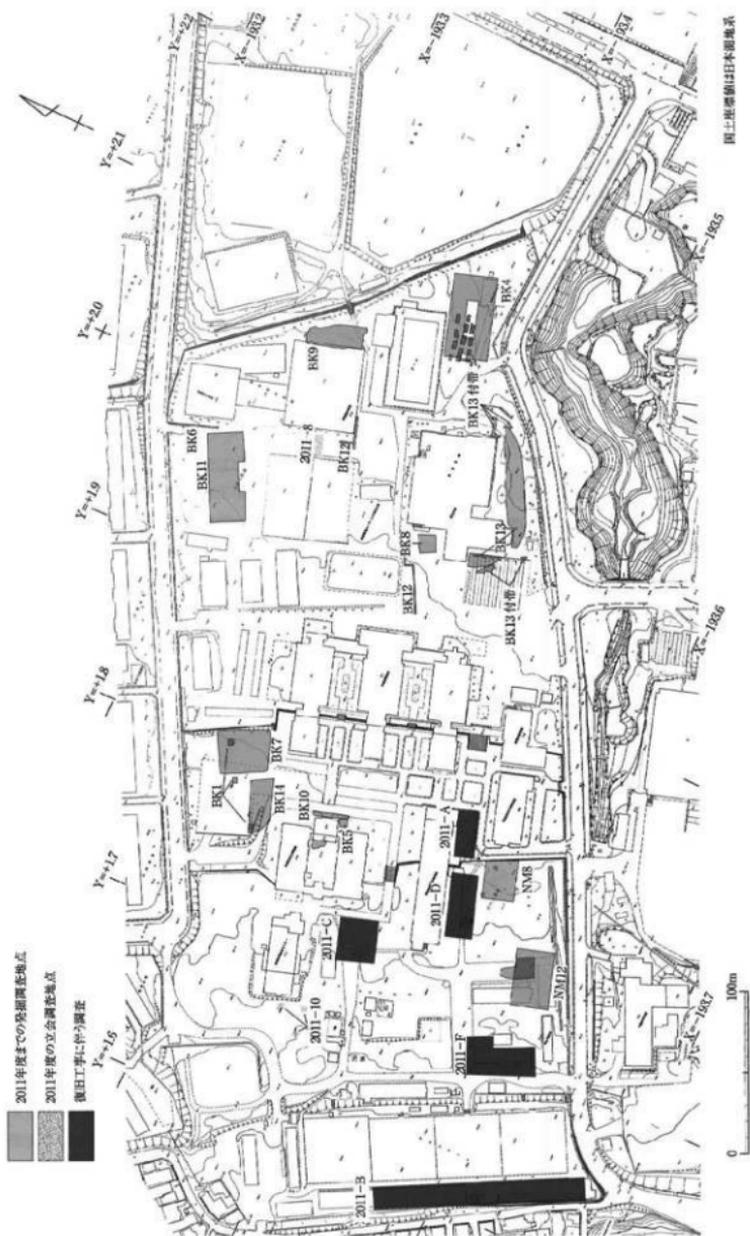
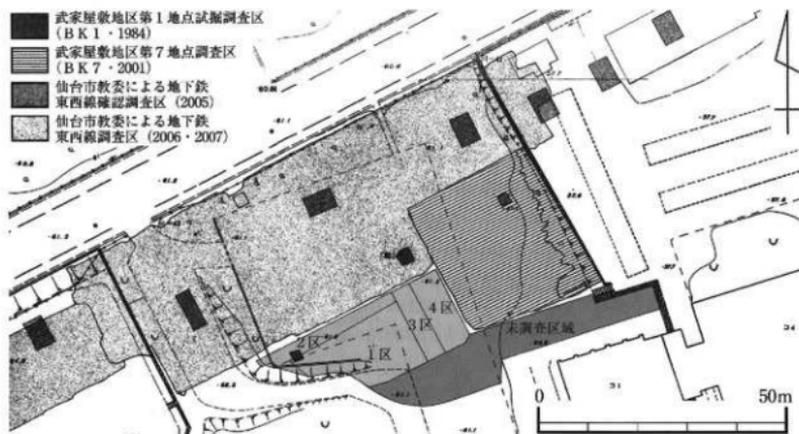
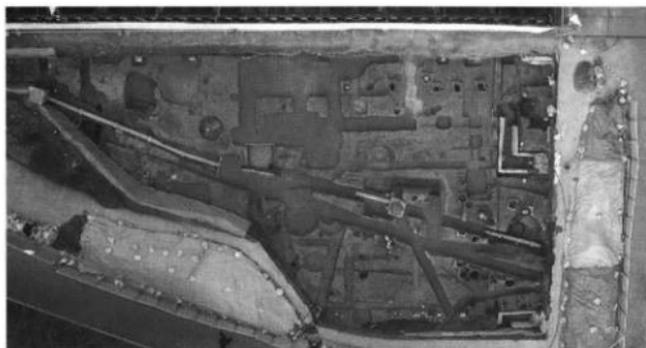


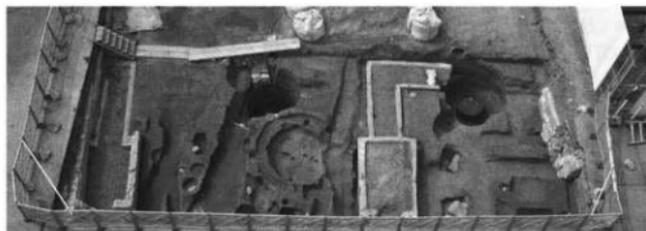
図3 川内北地区調査地点



1. 調査地点の位置



2. 1区・2区全景 (上が北)



3. 3区全景 (東から)

図4 仙台北城跡の丸北方武家屋敷地区第14地点調査状況

溝や井戸などの遺構が、東側を中心に検出されている。遺物は、陶磁器類や瓦などを中心に、コンテナで44箱が出土した。井戸などからは、木製品や塗装製品も出土している。第14地点の調査については、調査途中で中断しているため、全ての調査が終了した後に、調査区全体をまとめて整理作業を行い、調査報告書を作成する予定である。

立会調査を実施した2件の概要は、以下のとおりである。

・ハンドボールコート東側多目的コート排水管改修工事（2011-8）

川内北地区の厚生会館の北側には、ハンドボールコートなどとして利用されている多目的コートがある。この東側にある既存の集水枡と排水管が老朽化したため、取り替える工事である。集水枡は既存のものを撤去し同じ場所に設置し、排水管は既存管の上に埋設し、東側既存配水管へ接続する工事である。いずれも既存施設で既に掘削された範囲内の工事であり、特に問題はなかった。

・けやき保育園園庭照明灯取付工事（2011-10）

川内北地区の北西よりのところにある、教職員用の保育園の園庭に、照明灯を設置する工事である。園庭を囲う既存の柵に沿った植え込みで一段高くなった場所に設置されるため、もとの地盤からの掘削深さは30cmから45cm程度となる。掘削範囲が狭く、比較的浅いため、立会調査で対処した。今回の工事による掘削は、新しい盛土の範囲内におさまり、特に問題はなかった。

東日本大震災に関わる復旧工事で立会調査を実施した5件の概要は、以下のとおりである。

・合同研究棟災害復旧工事に係わる支障樹木移植（2011-A）

講義棟A棟の西側において、東北アジア研究センターなどが使用している合同研究棟では、屋上に設けられた塔屋が大きく損壊した。この屋上の塔屋撤去工事に際して使用する大型クレーンを設置するため、研究棟南東側の樹木を撤去することが必要となった。抜根作業に伴い掘削がなされたが、小規模な掘削のため、特に問題はなかった。

・テニスコート西側応急学生寄宿舎整備事業（2011-B）

震災によって住居が被災した学生のために、A棟からD棟の4棟の応急学生寄宿舎を、北地区の西端に整備する事業である（図5）。布基礎の上に、軽量鉄骨造2階建の寄宿舎を整備するもので、基礎による掘削深さを抑えるよう、竣工時の床面をかき上げて計画するなどの対策をとっていただいた。そのため、寄宿舎本体の基礎掘削は、新しい盛土の範囲内におさまり問題なかった。

設備工事についても、できるだけ浅く埋設するように工法を工夫していただいた結果、ほとんどの部分では新しい盛土の範囲内におさまり問題なかった。しかし、排水管を浅く設置するため圧送排水管とした関係で、ポンプ槽を2ヶ所設置することが必要となった。この場所については150cm四方の範囲で、現地表面より120cmほどの掘削が避けられないこととなった。2ヶ所の内の北側のC棟とD棟の間に設けられたポンプ槽については、掘削場所は新しい時代に攪乱された地層であったため問題はなかった。南側のA棟とB棟の間に設けられたポンプ槽では、現地表下60cmのところ、新しい盛土層のすぐ下から、80cm程の幅で南北方向に川原石が並べられた石列が発見された。検出面付近では遺物は出土しておらず、時期が限定できなかった。新しい盛土層の直下で検出されたため明治時代以降に下る可能性もあるが、江戸時代に遡る遺構である可能性も否定できない状況であった。そのためこの石列を現状で保存することとし、掘削地点を西側にずらすこととした。西側を掘削したところ、石列の下層に遺構と思われる落ち込みが存在することが確認された。この落ち込み埋上を少しずつ掘削したが、遺物はまったく出土しなかった。他に設置場所を移動できる場所がないことから、石列を残して西側を予定の掘削深度まで掘削した。遺物が出土しなかったため、時期は不明であり、江戸時代に遡るのか、明治時代以降の近代に属するものかも判明していない。掘削後、断面図などの記録を作成した上で、ここにポンプ槽を設置することとした。

- ・国際交流センター南側駐車場仮設校舎整備事業（2011-C）
- ・合同研究棟南西側仮設校舎整備事業（2011-D）
- ・テニスコート東側駐車場仮設校舎整備事業（2011-F）

この3件は、講義棟より西側の駐車場として利用されている区域に、仮設校舎を整備する事業である。布基礎の上に、軽量鉄骨造の仮設校舎を整備するものである。これまでの周辺区域での立会調査結果を踏まえ、基礎による掘削深さが、江戸時代の遺構面まで達しないように、竣工時の地表面をかさ上げて計画するなどの対策をとっていただいた。その結果、いずれにおいても、基礎による掘削は近代以降の盛土の範囲内におさまり、問題はなかった。

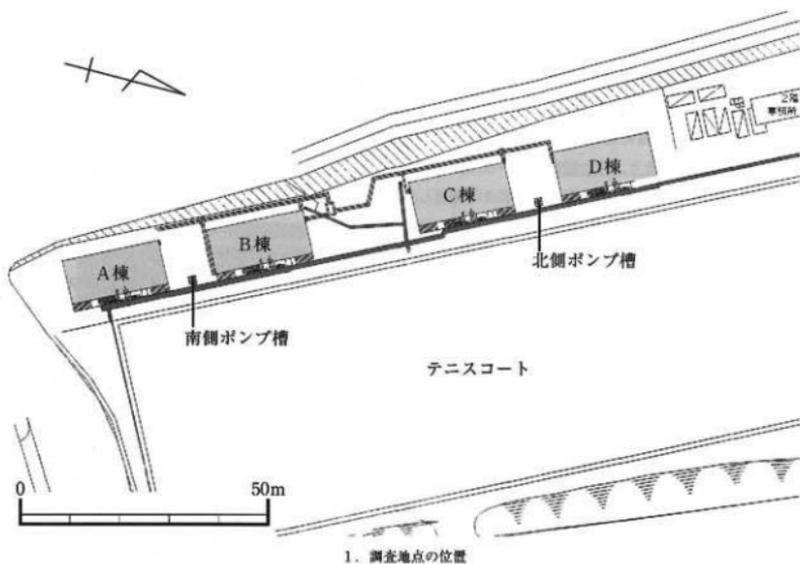


図5 応急学生寄宿舎整備事業に伴う立会調査状況

(2) 川内南地区の調査

川内南地区では、立会調査7件を実施した(図6)。

・図書館北東側5号井戸改修工事(2011-1)

図書館北東側の、千貫沢の南岸部分に設置された5号井戸が老朽化したため、設備を更新する工事である。5号井戸は、その新設の際に、仙台城跡二の丸地区第14地点のⅡ-Ⅰ区として、調査を実施した場所である。この調査では、現地表から90cmまで近現代の盛土で、その下層は固く締まった砂からなる地山層で、江戸時代の遺構・遺物は発見されていない(年報11)。今回の工事は、既存設備を更新するため、井水送水管・電線管は入れ替えとなり、既に掘削された範囲内での工事となった。井戸本体については、前回の工事範囲より若干大きく掘削されることとなった。前回工事に先立つ調査では、江戸時代の遺構が発見されなかったことから立会調査で対処したが、前回調査時の所見と異なる状況は見られなかった。

・植物園前庭南西側本沢水門土留欄崩壊復旧工事(2011-2)

川内南地区の南端には、西側の植物園敷地となっている青葉山から流れる本沢が、東へ流下している。本沢が丘陵部から出る場所に水門が設けられており、周囲には丸太杭の土留欄が設置されている。この土留欄が崩壊したため、復旧する工事である。崩壊した土砂を除去して、新たに丸太杭を打って土留欄とする工事で、新たな掘削は発生せず、問題はなかった。

・植物園標本室南西側法面崩壊復旧工事(2011-3)

2010年12月22日の豪雨によって、植物園標本室南西側の法面が崩壊した。この法面の上には、二の丸最西端を面する塀が設けられていたと推定されており、第6地点の調査の際には、塀の基礎の可能性がある低い石組が検出されている(年報3)。復旧工事は、崩壊した土砂を撤去し、斜面には丸太杭を打って土留めを施すものである。崩壊した土砂の除去だけで、新たな掘削は行われなかったため立会調査で対処し、特に問題はなかった。崩壊した土砂には、瓦が含まれていたため、土砂撤去の際に回収した。これらの瓦は、二の丸最西端の塀に使用された可能性が考えられる。

・図書館北西側光ケーブル架空敷設用鋼管柱設置工事(2011-4)

携帯電話会社が東北大学の敷地を借用して、銅鉄製の電柱を建柱する工事である。柱部分はオーガーによる掘削で、これに加えて、深さ50cmに補強を入れる部分を手掘り掘削するものであった。掘削範囲が狭いため、立会調査で対処したが、特に問題はなかった。

・植物園前庭南東側給水管漏水復旧工事(2011-6)

植物園前庭の散水栓用の給水管が老朽化し、漏水したため、復旧する緊急工事である。既存管の漏水箇所を確認し、漏水を留める工事を行ったもので、既存管の設置で掘削された範囲におさまった。

・文科系中講義棟東側汚水管改修工事(2011-11)

文科系中講義棟のトイレから延びる汚水管が老朽化し、十管の継ぎ目が破損して頻繁につまることから、管を入れ替える工事を行うこととなった。汚水枡はそのまま使用し、既存管を入れ替える工事であるため、既存管の設置の際に掘削された範囲におさまった。

・植物園標本室南側屋外給排水管改修工事(2011-12)

植物園標本室で使用している給排水管が老朽化したため、更新する工事である。給水管は、既存管を入れ替えることとなり、既に掘削された範囲での工事にとどまり、特に問題はなかった。排水管については、研究棟南西隅近くの既存汚水枡に接続することが必要となり、新しい経路で設置されることとなった。周辺での調査成果を踏まえ、排水管の埋設深さを30~50cmと浅くなるように計画していただいた結果、新しい盛土の範囲内におさまり問題はなかった。

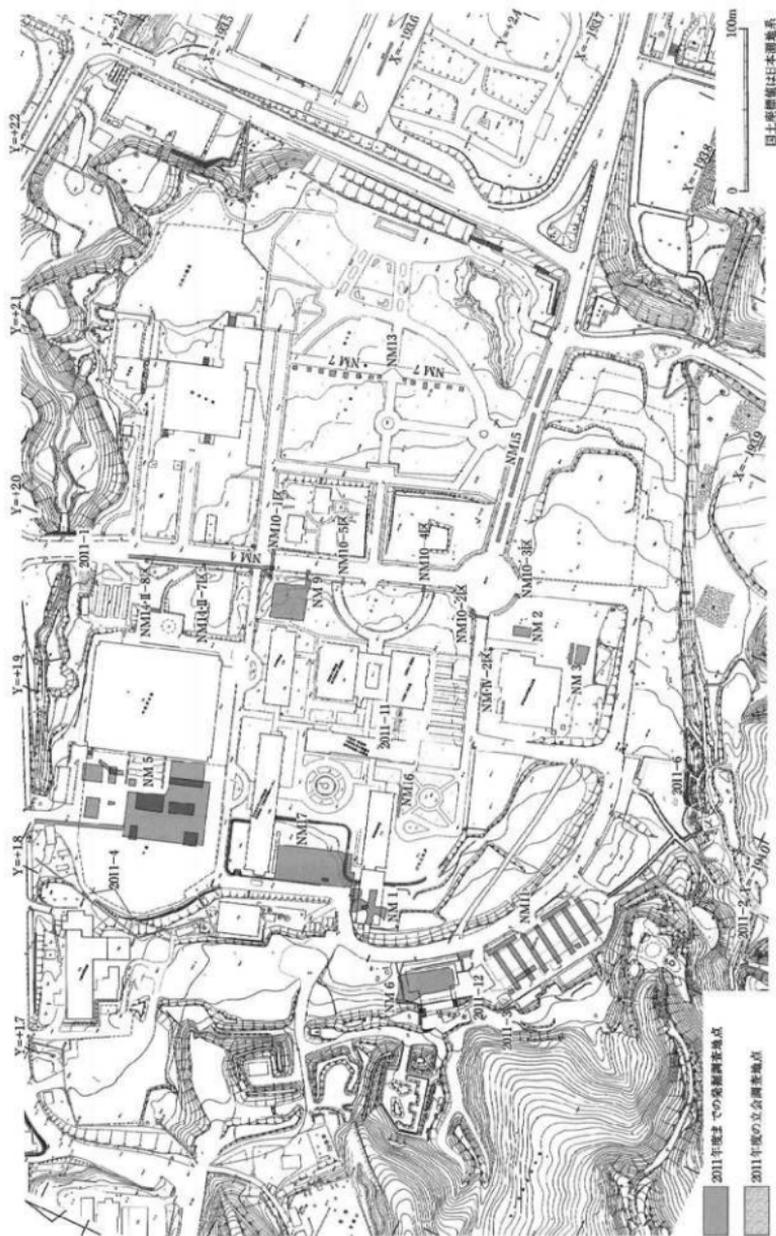


図6 川内南地区調査地点

(3) 青葉山北地区の調査

理学研究科・薬学研究科などが所在する青葉山北地区では、立会調査1件を実施した。東日本大震災に関わる復旧工事での立会調査は1件実施した(図7)。

・サイクロトロンRI棟暖房設備改修工事(2011-7)

サイクロトロンRIセンターのRI棟で使用している暖房用のガス管が老朽化したため、入れ替える工事である。サイクロトロン実験棟からRI棟までつながっている屋外ガス管部分の工事である。既存管を新しい管に入れ替えるため、工事による掘削は、既存施設で既に掘削された範囲内にとどまり、特に問題はなかった。

・地学棟西側駐車場仮設校舎整備事業(2011-E)

地学棟西側の駐車場となっている場所に、仮設校舎を整備する工事である。布基礎の上に、軽量鉄骨造の仮設校舎を整備するものである。基礎掘削の深さを、できるだけ浅くするなどの措置をとっていただき、ほとんどの掘削工事は、新しい盛土の範囲内におさまった。設備工事部分で、一部地山のローム層が露出したところがあったが、縄文時代の遺物包含層や遺構などは確認されず、遺物も出土していない。

(4) 富沢地区の調査

富沢地区の芦ノ口遺跡では、確認調査1件、立会調査2件を実施した(図8)。

・富沢団地独身宿舎南側宿舎新築計画に伴う確認調査(2011-13)

東北大学の富沢団地には、その西側に職員宿舎が並んでいる。東北大学の長町宿舎が、東日本大震災によって使用不能となったため、新築復旧が富沢団地で計画された。建築計画場所は、最も北側に建っている独身宿舎の南側にあたる場所で、敷地の北西隅に近い場所である。富沢団地の北西部は、これまで調査が実施されていない区域であり、遺跡の状況などがほとんど判っていない。そのため、建築計画場所の遺跡の状況を把握する目的で、確認調査を実施した。

宿舎の建築計画に沿って、調査区を配置した。現状の地形も考慮して、1～4区の4ヶ所に調査区を設定した。調査面積は、合計で99㎡である。2012年3月5日から23日の期間で、表土および新しい盛土を重機で除去した後、地山面を精査して、遺構・遺物の有無や、基本層序の状況を確認した(図9)。

・1区

西よりの部分に設定した、6m×6mの調査区である。浅いところでも50cm以上の盛土が存在した。盛土を除去すると、それ以前の表土層(暗褐色土層)があり、その下位に、地山最上部の褐色土層が露出した。地山上面は、北西側に向かって下っていることが明らかとなった。現地表から地山上面までの深さは、南東隅で-55cm、南西隅で-90cm、北西隅で-105cmであった。北西隅付近では、旧表土層がグライ化した部分もあり、沢状の地形となっていた可能性が考えられる。遺構は検出されておらず、遺物も出土していない。

・2区

北東側に設定した、3m×12mの調査区である。3区・4区の北側に位置し、これらより一段低くなっている場所である。厚さ50cmほどの新しい盛土を除去すると、明黄褐色粘土層が露出する。他の調査区の様子から、地山最上部の褐色土層より下位の地層と考えられ、旧表土付近の地層は削平されて存在しないことが明らかとなった。遺構は検出されておらず、遺物も出土していない。

・3区

1区の東側に位置し、4区から1区に向かって西へ緩く下っていく斜面に設定した、3m×3mの調査区である。表土はごく浅く、5～10cmほどしか存在しない。表土の下位には、地山の明褐色粘土層が露出する。地山最上部の褐色土層は確認できなかった。地山上面の傾斜も、現状と変わらず、西へ向かって緩く下っていく。調査区北端に、褐色土のほぼ円形のプランの一部が確認されたが、埋土の状況などから、風倒木痕と考えられる。

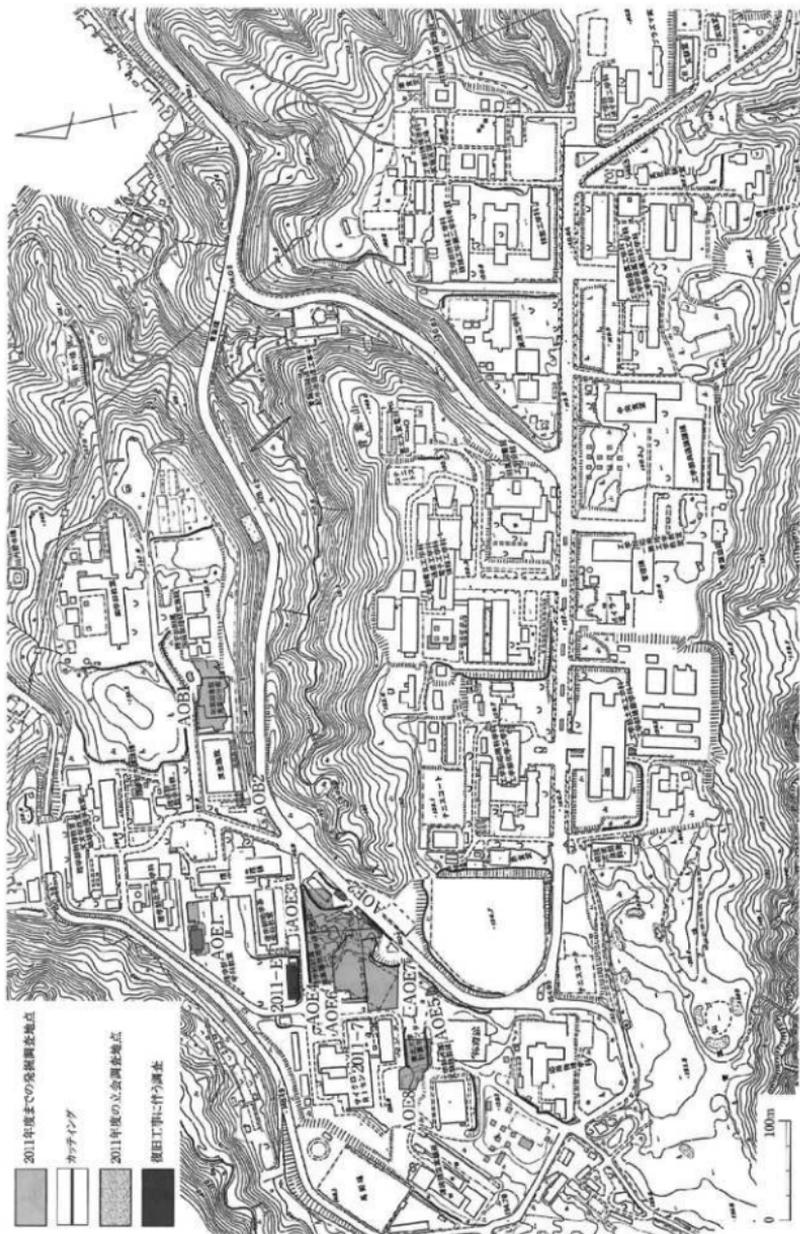


図7 青森山地区調査地点

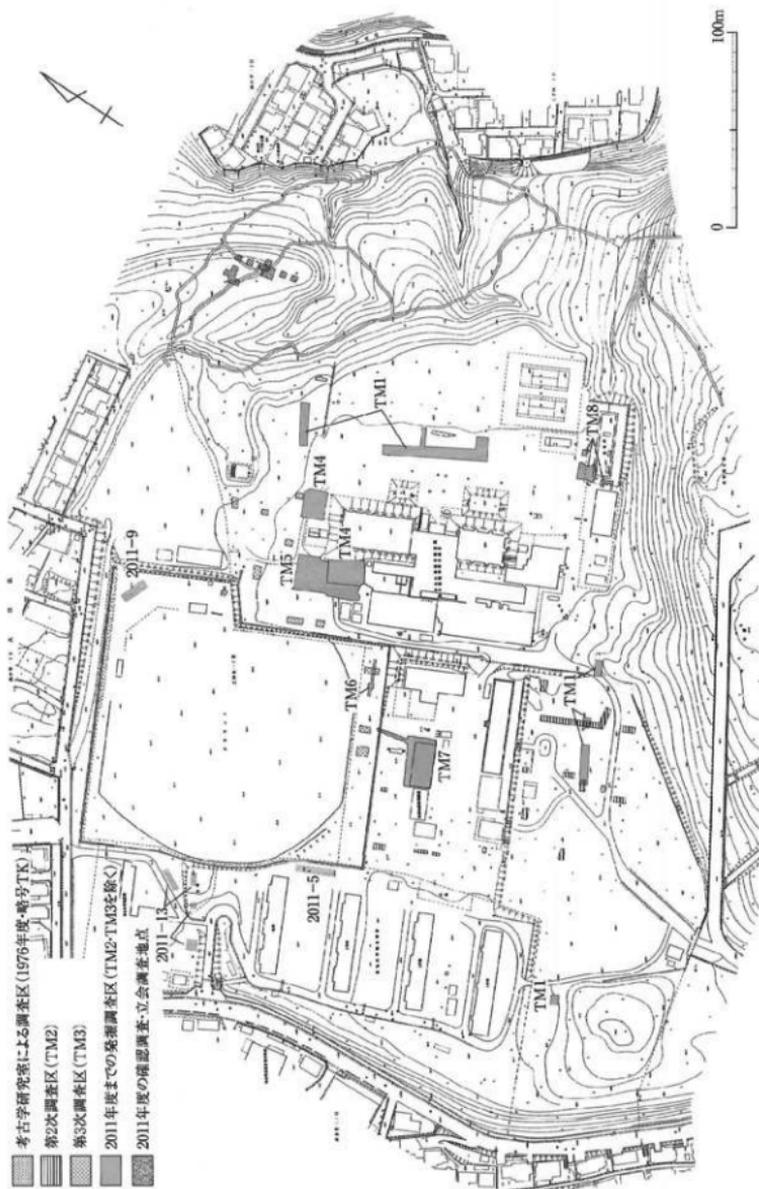
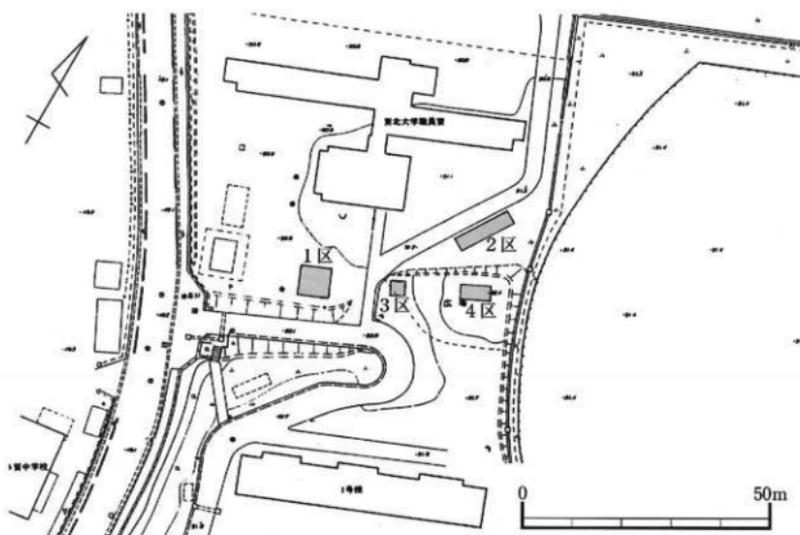


図8 富沢地区調査地点



1. 調査区の配置



2. 1区全景（東から）



3. 2区全景（北東から）



4. 3区全景（南東から）



5. 4区全景（西から）

図9 富沢地区芦ノ口遺跡確認調査状況

これ以外には、遺構は確認されておらず、遺物も出土していない。

・4区

3区の東側にあたり、今回の調査地点周辺では、もっとも標高の高い部分に設定した調査区である。本来の微高地状の高まりが残存している可能性が高いものと想定した。3m×6mの調査区を設定して調査したが、調査区全域に建物のコンクリート基礎が存在した。戦前にこの場所に置かれていた、陸軍幼年学校の建物基礎と考えられる。建物基礎によって破壊され、地山上部の地層は削平されていると考えられる。遺物は出土していない。

今回の調査によって、4区から3区をへて1区にかけての区域では、本来の地形がおおむね残されていることが明らかとなった。ただし、最も上部の4区周辺では、陸軍幼年学校時代の建物基礎で破壊されていた。全体に、西側に向かって下っていく斜面で、1区ではさらに北西側へ下っていくことが明らかとなった。遺構はいずれの調査区でも検出されておらず、西側や北西側へ下っていく斜面という点から、居住などにはあまり適さない区域であった可能性が考えられる。2区周辺では、すでに削平を受けており、本来の地形は残されていなかった。いずれの調査区からも、遺物は出土しなかった。

東北大学の敷地の西側には、西多賀中学校があり、さらに西側に金剛沢が流れている。この区域全体は、金剛沢に向かって西側へ下っていく地形と考えられる。確認調査結果と周辺の地形を合わせて考えると、建設予定地周辺は、全体に西側へ下っていく斜面であったと考えられる。確認調査結果からは、遺構・遺物が存在する可能性はほとんど考え難いものと判断された。これらの所見を踏まえて、仙台市教育委員会と協議し検討した結果、宿舍新築に際しては、事前調査は実施せず、立会調査で対処することとなった。

立会調査を実施した2件の概要は、以下のとおりである。

・職員宿舍東側宿舎遊具取設工事（2011-5）

職員宿舍の東側には、小規模な児童公園（ちびっこ広場）が設けられており、この場所に遊具（鉄棒）を設置する工事である。鉄棒の支柱を4ヶ所設置するもので、ごく小規模な掘削であり、特に問題はなかった。

・野球場北東隅硬式野球部部室設置工事（2011-9）

富沢地区の北側中央部には、野球場が設けられている。この野球場の北東隅に、野球部の部室を設置する工事である。富沢地区は、もともとの地形は北側に向かって緩やかに傾斜していたものを、南側を削平して北側に盛土を施すことで、平坦な面を造成していることが、これまでの調査で判明している。そのため、部室が掘削される区域では、盛土がなされていることが確実な区域であった。建物構造も簡便なもので、基礎設置による掘削も30～40cmと浅かったことから立会調査で対処した。掘削は新しい盛土の範囲におさまリ、問題はなかった。

2. 遺物整理作業

2011年度は、次の3件の整理作業を実施した。

①仙台城跡二の丸北方武家屋敷敷地区第13地点（BK13）の整理作業

川内北地区の厚生会館増改築工事に伴う調査で、2008年度に増築建物本体部分、2009年度に付帯施設部分の調査を実施している。近世の武家屋敷に関わる、柱穴や溝などが発見されている。遺物は、近世の陶磁器類や瓦などが、本体部分で16箱、付帯工事部分で2箱出土している。2011年度は、出土遺物の集計、実測図作成、トレース、磁器の文様のデジタル写真からの図化、写真撮影などの作業を実施した。

②芦ノ口遺跡第7次調査（TM7）の整理作業

2009年度に実施した、電子光物理学研究センター光源加速器棟新営に伴う調査である。粘土探掘坑と考えられるピットを83基検出している。遺物は、土師器や縄文土器などが、2箱出土している。2011年度は、出土遺物の一部について、実測図作成とトレースなどの作業を行った。

③戸ノ口遺跡第8次調査（TM8）の整理作業

2009年度に実施した、電子光理学研究センター特高変電所受変電設備改修その他工事に伴う調査である。遺物は検出されていないが、丘陵側からの崩壊土層に若干の遺物が含まれていた。遺物は、縄文土器などが1箱出上している。2011年度は出土遺物の一部について、実測図作成とトレースなどの作業を行った。

3. 年次報告・調査報告の刊行

埋蔵文化財調査室では、「東北大学埋蔵文化財調査年報」（以下「調査年報」と略記）を、1から24まで刊行してきた。この「調査年報」には、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきた。そのため、発掘調査報告の刊行まで期間を要することとなり、事業概要の報告が遅くなっていた。また、頁数の多い大冊となるため、調査室の概要を知っていただくという目的には、必ずしもふさわしくなかった。このような理由から、2010年度より、年度ごとの事業概要の報告と、発掘調査の報告を、分離して刊行していくこととした。年度ごとの事業概要については、「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告」（以下「年次報告」と略記）という形で、毎年報告することとした。

本調査を実施した発掘調査報告については、「東北大学埋蔵文化財調査室調査報告」（以下「調査報告」と略記）というシリーズ名で、各調査ごとに、調査報告書を刊行していく形に移行する。それぞれの調査について、整理作業が終了次第、順次刊行していくこととした。

これまでに刊行した「調査年報」「年次報告」「調査報告」については、IV. 資料に、一覧を掲載している。

2011年度は、「年次報告」を2冊、「調査報告」を1冊を印刷刊行した。

年度ごとの事業概要の報告が遅れているため、2011年度は「年次報告」を2ヶ年分刊行することとし、「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009」と「東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010」の2冊を刊行した。各年度の発掘調査や立会調査の概要と、整理作業や保存処理作業など、関連する調査室の業務概要を、年度ごとに取りまとめ掲載した。これにより、当該年度の翌年度に、「年次報告」を刊行する体制に移行できたこととなる。

「調査報告」は、「東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1」を印刷刊行した。2006年度から2008年度にかけて実施した、地下鉄東西線機能補償関係の調査成果について取りまとめたものである。掲載した調査は、川内サブアリーナ棟新営に伴う仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11）と、屋外給排水管設備などの工事に伴う武家屋敷地区第12地点（BK12）である。また、地下鉄東西線機能補償関係の工事に伴う立会調査の概要も、まとめて掲載した。合わせて、「仙台城周辺の武家屋敷地区についての検討」として、2編の論考を掲載した。一つは、文学研究科日本史研究室の大学院生である渡谷悠子氏による「仙台北下絵図にみる屋敷拝領者変遷と階層性—川内地区の事例に基づいて—」である。城下絵図に記載された、川内地区の屋敷拝領者の人名を網羅的に検討してデータ化するとともに、その変遷や階層性などを検討したものである。今後の川内地区の武家屋敷の検討に際して、基礎となる論考である。もう一つは、調査室担当者による「川内地区における江戸時代の道路の復元」である。東北大学や仙台市教委による調査成果を踏まえ、江戸時代の絵図に記載された道路の位置を、現在の地図上に復元したものである。

この「東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1」は、2010年度に刊行する予定で、原稿の印刷業者への入稿は終了していた。しかし、校正の時間に余裕がなかったことから、万全を期するために、印刷刊行は2011年度に延期していたものである。2010年度末に東日本大震災が発生したが、印刷刊行を2011年度に延期していたため、結果的には大きな影響を受けることなく、印刷刊行ができた。これをもって、地下鉄東西線機能補償関係調査に関わる、一切の業務は終了したことになる。

4. 保存処理事業

東北大学埋蔵文化財調査室では、仙台城跡の出土遺物を中心に、木製品・漆塗製品・金属製品など、保存処理を必要とする遺物を多数保管している。この内、木製品と金属製品については、当調査室で保存処理を進めている。木製品については、1997年度以降、槽アルコール法によって処理している（年報16）。

木製品については、2007年度に調査した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（BK11）から出土した遺物の処理を、2010年度から本格的に開始した。2011年度は、この第11地点の出土木製品の処理を継続して実施した。調査報告書に実測図を掲載した資料については、2011年度で処理を終了した。非実測資料について、当年度では終了せず、作業を継続中である。

銅製品については、2008～2009年度に調査を実施した仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（BK13）から出土した遺物のさび取り作業を、2011年度に実施し、当年度で全て終了した。

鉄製品についても、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（BK13）から出土した遺物のさび取り作業を、2011年度に実施した。調査報告書に実測図を掲載した資料については、2011年度で処理を終了した。非実測資料について、当年度では終了せず、作業を継続中である。

5. 資料保管状況

東北大学埋蔵文化財調査室では、ほとんどの遺物は容量30.3リットルのコンテナ（ポリプロピレン製・サンボックス#32）に収納している。このコンテナに入らない大型のものについては、さらに大きなコンテナや、適宜木箱を作成して収納している。また2009年度より、収蔵用の箱に木製箱を採用している。油脂製のコンテナは、火災の際に甚大な被害を受けるのに対して、木製箱は耐火性が高く火災時に燃焼するまでの時間が長いことが明らかとなっている。そのため東北大学埋蔵文化財調査室では、整理作業後の収蔵保管にあたっては、油脂製箱から木製箱へ取り替えていくこととし、2009年度から一部は木製箱へ詰め替えを行っている。

これら遺物の全重量を把握するために、容器の種類や大小にかかわらず、箱の数で数量を管理している。ただし、木製品や金属製品など保存処理を行う必要のあるものは、別に保管しているため、これには含まれていない。東北大学埋蔵文化財調査委員会が発足した1983年度からの、遺物総量の推移を箱数で比較したのが、表4と図10である。

2011年度の調査によって新たに増加した箱数は、44箱である。全て、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）の調査で出土した遺物である。2011年度に整理作業が完了した調査はないため、整理・報告済みの箱数については、2010年度と変わらず2,790箱である。未整理のものは65箱となり、2011年度末時点で当調査室で保管している遺物総量は、2,855箱である。この内、整理・報告済みのものの比率は97.7%である。

6. 研究活動

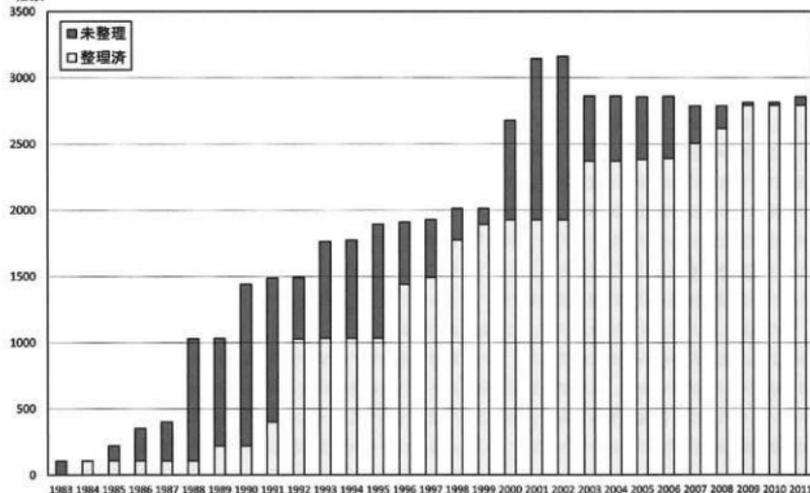
(1) 受託研究・共同研究・研究協力等

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14次調査地点の調査開始の際に、東北アジア研究センターの佐藤源之研究室による、地下レーダー探査実験に協力した。佐藤研究室では、従来より地ドレーダー探査の、遺跡探査への応用を研究テーマとしてきた。武家屋敷地区第14次調査地点の調査予定地において、レーダー探査の実験を行いたいという申し出が、佐藤研究室からなされたことを受けて協力したものである。調査開始に先立つ8月30日に、調査予定地の内、草地となっていた範囲において、地ドレーダー探査実験を行い、その後の調査状況と比較して検討した。

表4 年度ごとの収蔵遺物箱数の推移

年 度	未整理箱数	整理済箱数	合計箱数	備 考
1983	104	0	104	
1984	4	104	108	年報1 (1983年度調査分) 刊行
1985	113	108	221	年報2 (1984年度調査分) 刊行
1986	245	108	353	
1987	293	108	401	
1988	920	108	1,028	
1989	811	221	1,032	年報3 (1985年度調査分) 刊行
1990	1,218	221	1,439	
1991	1,086	401	1,487	年報4・5 (1986・87年度調査分) 刊行
1992	463	1,028	1,491	年報6 (1988年度調査分) 刊行
1993	732	1,032	1,764	年報7 (1989年度調査分) 刊行
1994	742	1,032	1,774	
1995	861	1,032	1,893	
1996	469	1,439	1,908	年報8 (1990年度調査分) 刊行
1997	435	1,491	1,926	年報9・10 (1991・92年度調査分) 刊行
1998	236	1,774	2,010	年報11・12 (1993・94年度調査分) 刊行
1999	117	1,893	2,010	年報13 (1995年度調査分) 刊行
2000	751	1,926	2,677	年報14・15・16 (1996・97・98年度調査分) 刊行
2001	1,216	1,926	3,142	年報17 (1999年度調査分) 刊行
2002	1,234	1,926	3,160	
2003	491	2,370	2,861	二の丸17地点整理後詰め直し等で箱数減少
2004	491	2,370	2,861	年報18 (2000年度調査分) 刊行
2005	472	2,384	2,856	年報19-1・20 (2001・02年度調査分) 刊行
2006	467	2,391	2,858	年報19-3・21 (2001・03年度調査分) 刊行
2007	281	2,307	2,788	年報19-4・22 (2001・04年度調査分) 刊行
2008	185	2,619	2,804	年報19-2・23 (2001・05年度調査分) 刊行
2009	21	2,790	2,811	地下鉄播磨団地調査整理作業終了
2010	21	2,790	2,811	
2011	65	2,790	2,855	

箱数



年度

図10 収蔵遺物量の推移

(2) 学会発表等

2011年度は、調査室の業務にかかわる、学会での研究発表等は行っていない。

文化財調査員の、個人の研究テーマでの研究成果発表としては、以下のものがある。

- ・2011年度東北史学会大会 2011年10月2日 於：東北大学
菅野智剛 「東北地方における縄文集落の地域性」

(3) 科学研究費採択状況

2011年度において、当調査室の文化財調査員で、科学研究費等の交付を受けたもの次のとおりである。

- ・菅野智剛 学術研究助成基金助成金・若手研究（B） 1,560,000円 「縄文時代における居住形態の研究」

7. 教育普及活動

(1) 非常勤講師

2011年度に、当調査室の文化財調査員で、非常勤講師を担当したものは次のとおりである。

- ・藤沢 敏 東北大学大学院文学研究科・文学部 考古学特論・各論（後期）「古墳時代研究の理論と方法」
宮城教育大学 考古学講義・日本史講義D（後期）
京都大学大学院文学研究科・文学部 考古学特殊講義（前期集中講義）
「考古学から見た古代国家形成期の東北」

(2) 授業など教育活動への協力

2011年度は、学内外での授業などの教育活動への協力としては、特に行っていない。

(3) 保管資料の貸出

2011年度は、調査室保管資料の貸し出し依頼などはなかった。

(4) 外部からの派遣依頼等

当調査室の業務に関わって、あるいは文化財調査員の専門領域に関わる事項で、外部から派遣等の依頼があったのは、次のとおりであった。

担当者：藤沢敏

- 2011年4月23・24日 考古学研究会第57回総会「震災緊急フォーラム－東日本大震災に直面して－」
報告「大震災に直面して－宮城県の被災状況を中心に－」 於：岡山大学
- 2011年6月25・26日 国立歴史民俗博物館基幹研究「新しい古代国家像のための基礎的研究」共同研究員
於：国立歴史民俗博物館
- 2011年8月27・28日 考古学研究会第57回研究集会「〈日本考古学〉の時間・空間を再考する」
コーディネーター 於：岡山大学
- 2011年9月14・15日 阿光坊古墳群整備検討委員会 於：青森県おいらせ町みなる館
- 2011年9月23・24日 国立歴史民俗博物館基幹研究「新しい古代国家像のための基礎的研究」共同研究員
於：国立歴史民俗博物館
- 2011年10月30日～11月3日
国立歴史民俗博物館基幹研究「新しい古代国家像のための基礎的研究」共同研究員
於：中国、撫順・永陵・通化・集安・桓仁など高句麗遺跡

- 2011年12月21・22日 平成23年度保存科学研究集会「被災文化財のレスキュー—保存科学の果たすべき役割と課題—」研究発表「文化財レスキューでの考古学研究者の役割と課題」
於：奈良文化財研究所
- 2011年12月23・24日 国立歴史民俗博物館基幹研究「新しい古代国家像のための基礎的研究」共同研究員
於：兵庫県たつの市ほか播磨風土記関係遺跡
- 2012年2月14日 第27回仙台城跡調査指導委員会 於：仙台市役所北庁舎
- 2012年3月3日 第1回 防災遺産学フォーラム「災害からの文化的復興にむけて—文化遺産の役割—」
主催：被災文化遺産支援コンソーシアム（CEDACH）・大手前大学史学研究所
報告「宮城県における東日本大震災被災文化遺産の救援活動と今後にむけて」
於：大手前大学
- 2012年3月17・18日 国立歴史民俗博物館基幹研究「新しい古代国家像のための基礎的研究」共同研究員
於：国立歴史民俗博物館
- 2012年3月29日 平成23年度房の沢古墳群出土品保存管理指導委員会 於：岩手県山田町中央公民館
- 担当者：菅野智則
- 2011年11月26日 全国遺跡資料リポジトリ・ワークショップ in 東京「文化遺産の記録をすべての人々へ！—遺跡資料リポジトリの自立的な展開をめざして—」
発表題目「遺跡データベースと報告書」 於：国立情報学研究所
- 2011年12月4日 2011年度博古研究会総会・研究発表大会
発表題目「東日本大震災と文化財」 於：千葉県立現代産業科学館

(5) 広報活動

・川内萩ホール展示ギャラリー常設展

東北大学川内南キャンパスの東側には、創立50周年の際に建設された記念講堂がある。この記念講堂は、創立100周年の記念事業の一環として、改修工事が施され、平成20年に「東北大学百周年記念会館（川内萩ホール）」としてリニューアルされ各種事業に使用されている。この改修に伴い、エントランスホールに展示ギャラリーが設けられた。この展示ギャラリーは、本部総務部広報課が事務担当となり、学内からの公募によって、学内の研究資料や研究成果を紹介するために使用されている。しかし、年間を通じた全ての期間を、公募の展示で構成することには困難が伴うことから、一定期間を常設展とする構想が提起された。そのため、東北大学史料館から、川内キャンパスの歴史を基本テーマとする以下のような構想が提案された。

東北大学全体の歴史は、片平地区の史料館などで展示が行われ、片平キャンパスの歴史についても比較的详细な紹介がなされてきているが、川内キャンパスをテーマとした展示などは学内では全く行われていない。川内地区は、萩ホールの所在地であることに加え、全学教育が行われ、東北大学の学生の多くが学生生活を過ごす場であり、仙台城などの史跡に隣接して仙台市民にとっても重要な場所であるので、その歴史をテーマにした常設展とすることが望ましい。

この史料館の提案を受けて、史料館・植物園・埋蔵文化財調査室が協力して、展示を構成することとなった。協議の結果、常設展のテーマは「川内今昔物語」とすることとなった。

展示ケース（180×120cm）は3台設置されており、次のような資料を展示した。

ケース1：川内地区出土の縄文土器・弥生土器・石器、古代の瓦・土器

仙台城二の丸地区の江戸時代初期の屋敷出土の陶磁器など

仙台城二の丸の元禄年間の整地層出土の荷礼木簡

ケース2：仙台城二の丸出土の18世紀の陶磁器など一括資料

仙台城二の丸出土の瓦、武家屋敷地区出土の土人形類

ケース3：陸軍第二師団時代の食器・ガラス瓶など出土遺物

東北大学川内キャンパス関係資料

展示ケース1と2は、全て、埋蔵文化財調査室が保管している川内地区からの出土遺物である。展示ケース3は、全体の3分の1程度が第二師団時代の出土遺物で、調査室保管の出土遺物である。結果的に、展示資料のほとんどは、埋蔵文化財調査室が保管している出土資料で構成することとなった。なお、ケース1に展示した、仙台城跡二の丸地区第9地点出土の志野焼南蛮人人形については、あらたにレプリカを作成して展示している。この志野焼の南蛮人人形については、江戸時代初期の様相を良く示す資料で常設展示にふさわしい一方、学外からの貸出依頼が多い資料であるため、京都科学に依頼してレプリカを作成した。

展示パネルは、以下の7枚を作成した。

- ①常設展示「川内今昔物語」全体紹介
- ②川内の自然
- ③古代・中世の川内
- ④江戸時代の川内＝仙台城二の丸と武家屋敷
- ⑤近代の川内
- ⑥川内キャンパスの誕生
- ⑦川内萩ホール

埋蔵文化財調査室では、このうちの③と④を担当して、原稿を作成した。

この常設展については、2010年度末から検討を開始したが、東日本大震災の影響で一時的準備作業は中断することとなったが、予定どおり学内公募の展示が終了後に常設展を開始することとなった。展示の設置作業は2011年11月14日に行い、これ以降公開されることとなった(図11)。

・調査室ウェブサイト開設

埋蔵文化財調査室では、様々な情報を発信するために、ウェブサイトを開設する方向で以前から検討を進めてきた。サーバーの管理・運営について、学外のレンタルサーバーの使用も含めて検討してきたが、セキュリティと経費の観点から、実現しない状況が続いていた。

2011年度から、東北大学の情報シナジー機構・サイバーサイエンスセンターにおいて、ウェブホスティングサービスの試行提供が開始されることとなった。これを利用することで、上記の問題が解決できることから、本年度よりウェブサイトを開設することとした。

ウェブサイトの内容としては、①埋蔵文化財に関する一般的な解説、②埋蔵文化財調査室の紹介、③東北大学構内の遺跡紹介、④これまでに調査した埋蔵文化財の紹介の4点を基本的なコンテンツとして、さらにトピック的な内容を加えることとした。一部は未完成であるが、2012年2月から公開を開始した。

調査室で刊行した調査報告書については、次に述べる遺跡資料リポジトリが東北大学図書館により進められており、pdfファイルが公開されている。調査室のウェブサイトでは、遺跡資料リポジトリとリンクし、



図11 川内萩ホール展示ギャラリーでの展示状況

そちらを参照できるようにした。これにより、調査室のウェブサイトで必要な容量を少なくできることから、ウェブホスティングサービスの契約内容は、共有サーバ（2GB）の、<http://web.tohoku.ac.jp/maibun/>を取得して利用することとした。今後、順次コンテンツを充実していく予定である。

・遺跡資料リポジトリでの発掘調査報告書の公開

遺跡資料リポジトリは、電子化した発掘調査報告書を公開している歴史・考古学分野のサブジェクト・リポジトリである。研究者・学生を中心に利用需要は大きいものの、小部数発行で一般には利用しにくかった発掘調査報告書を電子化・公開することで、報告書の流通と利利用の促進を目的としている。2008年度に、鳥根大学図書館を中心に中国地方5県域から、国立情報学研究所のCSI委託事業として開始された。2010年度以降は、全国遺跡資料リポジトリ・プロジェクトとして、対象を全国に拡大して進められてきた。

東北大学附属図書館でも、2010年度からこの事業に参加し、宮城県内の発掘調査報告書をpdfファイルの形でウェブサイトで順次公開している。埋蔵文化財調査室では、2010年度より東北大学図書館に協力し、調査室刊行の調査報告書を公開していただくとともに、県内行政機関との連絡などを行ってきた。2010年度までに、埋蔵文化財調査室刊行の『調査年報』『年次報告』については、ほとんどが遺跡調査リポジトリに登録して公開されてきた。2011年度には、当年度に刊行した『年次報告』『調査報告』も含めて、調査室で刊行してきた調査報告書の全てが、遺跡調査リポジトリに登録して公開されるようになった。

8. 東日本大震災による被災文化財の救援活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、津波被災地域を中心に、甚大な被害が発生した。博物館・資料館、資料収蔵施設なども多くが被災し、膨大な量の文化財等が被害を受けた。個人で所蔵されていた文化財の被害も、きわめて大きなものとなった。これら被災した文化財を救援して後世に伝えることは、地域の歴史と文化を継承していくために不可欠であり、地域の復興のためにも欠かせない。そのため、被災文化財の救援活動（文化財レスキュー）が、様々な形で行われることとなった。被災文化財の救援活動は、被災した現地から回収と安全な場所への運搬、劣化を防止するための応急処理、安定した環境での一時保管が当面の作業で、その上で本格的な修復、恒久的な施設での収蔵へとつながっていくこととなる。

東北大学では、3月19日に公表された「東日本大震災に対する総長メッセージ第2報」の「教職員のみなさんへ」の項目において、「教育研究基盤の回復や社会要請に応える震災支援に努めることを第一優先としての活動にしていきたい」との総長声明を公表した。これを受けて、東北大学の各施設長が必要と判断した震災支援の業務を、本務として実施することが可能となった。埋蔵文化財調査室では、考古資料をはじめとする文化財の取り扱いに習熟し、保存処理の設備と技術を擁した専門家による機関として、被災文化財の救援活動を、震災支援の業務として行うこととした（図12）。

・NPO法人宮城歴史資料保全ネットワークへの協力

宮城歴史資料保全ネットワーク（略称：宮城資料ネット）は、2003年に発生した、宮城県北部地震を契機に発足した組織で、宮城県内の歴史研究者や大学院生、あるいは文化財行政に関わる自治体職員などを中心に組織され、歴史資料の保全活動を行っている。主に、個人が所蔵している古文書を中心とした歴史資料について、被災地域からの救出活動や、資料の置かれた状況の調査などを行い、歴史資料の散逸や消滅を防ぐのに大きな役割を果たしてきた。2007年にNPO法人の認証を得て、東北大学東北アジア研究センターの平川新教授が理事長となり、同センターに事務局が置かれている。埋蔵文化財調査室では、2003年の宮城県北部地震による被災文化財の救出活動の時点から、協力関係を持ってきた。今回の震災による被災文化財の救援活動に際しても、宮城資料ネットは、活動の中心を担っている。その活動において必要となる、ヘルメットやスコップなどの機材を、貸与する形で提供した。



1. 歌津魚竜館の全景（4月13日）



2. 歌津魚竜館2階展示室被災状況（4月13日）



3. 洗浄した魚竜館資料の照合作業（4月14日）



4. 野蒜収蔵庫流出資料の回収作業（6月9日）



5. 旧牡鹿町収蔵庫被災状況（6月23日）



6. 旧牡鹿町収蔵庫での回収作業（6月23日）



7. 野蒜収蔵庫での回収作業（7月5日）



8. 石巻センター被災資料の洗浄作業（7月23日）

図12 東日本大震災被災文化財の救援活動状況

・南三陸町歌津魚竜館の展示資料レスキュー活動への参加

南三陸町の旧歌津町地区には、ウツギヨリユウ、クダノハマギョリユウ、ホソウラギョリユウという、時期の異なる魚竜化石が発見されており、これらは極めて貴重な自然史資料となっている。歌津魚竜館は、これら化石資料をはじめ、旧歌津町内の考古資料、民俗資料を展示する施設として、管の浜漁港の一角にある。本館は1階が物産コーナーで、2階が展示室となっている。本館の裏には、クダノハマギョリユウ化石が、発見された状態で見学できる施設が併設されている。震災による津波で2階まで完全に水没し、展示室は大きく破壊された。魚竜館の管理を委託されていた地元の方からの要請を受けて、東北大学総合学術博物館が主体となって、被災した展示資料の回収、安全な場所への運搬、応急処理が行われることとなった。考古資料も展示されていたため、埋蔵文化財調査室に協力要請がなされ、協力して実施することとなった。4月13日に、魚竜館から展示資料を回収し、東北大学に運搬した。考古資料については、埋蔵文化財調査室に運搬し、応急処理として洗浄作業をおこなった。考古資料の中には、銅製の掛仏と鏡、鉄製の宝剣が含まれていた。海水に水没したため、脱塩処理を早急に実施する必要があると判断し、当調査室で脱塩処理を実施した。

歌津魚竜館での活動は、次に述べる被災文化財等救援委員会が主導する文化財レスキュー事業が正式に動き出す以前に実施されたものであるが、レスキュー事業開始以降は、この事業の一環に位置づけられることとなった。南三陸町の旧歌津町の施設において安定収蔵が可能となったため、埋蔵文化財調査室で一時保管していた考古資料については、7月19日に南三陸町に運搬し返還した。

・被災文化財等救援委員会による文化財レスキュー事業への参加

東日本大震災で被災した文化財等の救援活動のために、文化庁が呼びかけ、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会が結成された。救援委員会は、国立文化財機構をはじめとする国の機関、日本博物館協会や全国美術協会などの博物館関係団体、文化財に関わる学会、歴史資料保全ネットワークなどの団体からなり、指定の有無を問わず被災文化財等を救援する空前の事業が行われることとなった。4月下旬には、仙台市博物館に救援委員会の現地対策本部が設置され、文化庁や国立文化財機構から派遣された職員が常駐し、地元教育委員会や関係機関・団体と連携して、レスキュー事業を実施することとなった。

この文化財レスキュー事業に関しては、救援委員会の委員長から、埋蔵文化財調査室長と文化財調査員あてに、「被災文化財等救援事業への御協力について（依頼）」の文書が、5月13日付で寄せられた。これ以降、救援委員会の文化財レスキュー事業に、東北大学埋蔵文化財調査室として、正式に参加・協力することとなった。

救援委員会による被災場所でのレスキュー作業で、埋蔵文化財調査室職員が参加したものは次のとおりである。

6月9・10日 東松島市野蒜文化財収蔵庫での外部流出資料の回収と仮封鎖

6月21日 女川町マリナル女川展示資料を回収し運搬

考古資料は東北大学埋蔵文化財調査室に運搬して応急処理として水洗作業実施

6月23・24日 石巻市旧牡鹿町資料収蔵庫の収蔵資料を回収し隣接する体育館へ移動

7月5～7日 東松島市野蒜文化財収蔵庫の収蔵資料を回収し奥松島純文村歴史資料館へ運搬

これらの回収作業以外に、石巻文化センターで被災した考古資料の一時保管と応急処理を担当している。石巻文化センターでは、1階にあった考古資料収蔵庫が、津波で完全に水没した。ここから回収された294箱の考古資料は、6月17日と7月14日に、東北大学埋蔵文化財調査室に運搬された。後に100箱は、仙台市教育委員会文化財課向田整理室で作業することとなり搬出され、残り194箱を埋蔵文化財調査室で保管することとなった。この194箱の資料は、津波で汚損し、カビなどの発生も見られることから、応急処理として水洗作業を行う必要があった。水洗作業は、埋蔵文化財調査室が保管および作業場所を提供し、宮城原考古学会が窓口となってボランティアをつのって洗浄作業を行うこととなった。洗浄作業は2011年6月20日から開始し、断続的に作業を実施し、10月5日までに185箱の洗浄が終了した。残る9箱は2012年3月13～15日に作業を行い、全ての洗浄作業が終了した。

それ以降は、保管状況を点検しつつ、埋蔵文化財調査室の収蔵庫において一時保管を続けている。

・宮城県保全連絡会議への参加

救援委員会のレスキュー事業は、宮城県での被災場所からの回収がほぼ終了したため、7月31日をもって、現地本部は撤収した。これ以降は、必要に応じて救援委員会から派遣される形となった。この文化財レスキュー事業を引き継ぎ、被災した宮城県内の文化財の保全を図るため、文化財レスキュー事業に関わる関係機関・団体との連携・協力の下に必要な活動を行うことを目的として、宮城県被災文化財等保全連絡会議が設置されることとなった。被災文化財等の一時保管施設、地元市町教育委員会などから構成されることとなり、一時保管施設である東北大学埋蔵文化財調査室も、保全連絡会議に参加することとなった。

連絡会議は、2011年10月5日に開催された準備会を経て、10月21日をもって正式に発足した。その後、第1回の連絡会議が2011年12月7日に、第2回の連絡会議が2012年3月21日に開催されている。連絡会議では、活動状況、一時保管施設での資料管理状況などについて、情報交換や協議が行われている。

〈引用・参考文献〉

- 観名裕一 2011 「東日本大震災における歴史資料保全活動－3.11以降の宮城資料ネットの活動を中心に」『日本歴史』759号 99～107頁
- 観名裕一 2012 「東日本大震災における歴史資料保全活動－大震災から1年間の宮城資料ネットの活動」『宮城考古学』第14号 13～24頁 宮城県考古学会
- 岡田 健 2011 「文化財レスキュー事業について」『博物館研究』46-9 8～12頁 日本博物館協会
- 菅野智則 2012 「文化財レスキューに参加して」『宮城考古学』第14号 105～110頁 宮城県考古学会
- 小谷竜介 2012 「宮城県における文化財の被災状況と被災文化財の救済活動」『宮城考古学』第14号 7～12頁 宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 1994 『仙台市青葉区文化財分布地図』
- 仙台市教育委員会 1995 『仙台市太白区文化財分布地図』
- 仙台市史編さん委員会編 2006 『仙台市史 特別編7 城館』仙台市
- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1985～1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報』1～7
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997～2006 『東北大学埋蔵文化財調査年報』8～18、19-1、20
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2007～2010 『東北大学埋蔵文化財調査年報』19-2・3・4・5、21～24
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2010～2012 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007～2010』
- 東北大学埋蔵文化財調査室 2011 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点－仙台市高速鉄道東西線機能補償関係調査報告書－』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1
- 藤沢 敦 2012 「宮城県考古学会東日本大震災対策特別委員会の活動」『宮城考古学』第14号 3～6頁 宮城県考古学会
- 宮城県教育委員会 1998 『宮城県遺跡地図』宮城県文化財調査報告書第176集

IV. 資料

1. 国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程

平成6年5月17日 規第56号

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 調査室は、国立大学法人東北大学（以下「本学」という。）の特定事業組織として、本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図ることを目的とする。

(職及び職員)

第3条 調査室に、次の職及び職員を置く。

- 室長
- 文化財調査員
- 特任准教授
- 事務職員
- その他の職員

(室長)

- 第4条 室長は、調査室の業務を掌理する。
- 2 室長は、本学の専任の教授をもって充てる。
 - 3 室長の選考は、第6条に規定する運営委員会の議に基づき、総長が行う。
 - 4 室長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(文化財調査員)

- 第5条 文化財調査員は、室長の命を受け、調査室の業務に従事する。
- 2 文化財調査員は、調査室の職員をもって充てる。

(運営委員会)

第6条 調査室に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、運営委員会を置く。
(運営委員会の組織)

第7条 運営委員会は、委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 東北大学施設整備・運用委員会各地区キャンパス整備委員会の委員 各1人
- 二 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 三 発掘調査地に関連のある部局の教授又は准教授で、その都度委員長が指名するもの
- 四 施設部長

(委員長)

- 第8条 委員長は、室長をもって充てる。
- 2 委員長は、運営委員会の会務を総理する。
 - 3 委員長は、必要があると認めるときは、運営委員会の同意を得て、委員以外の者を運営委員会に出席させ、議案について、必要な説明をさせ、又は意見を述べさせることができる。

(調査部会)

第9条 運営委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する専門の事項を調査審議させるため、調査部会を置く。

(調査部会の組織)

第10条 調査部会は、部会長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 調査室の特任准教授
- 二 文化財調査員
- 三 発掘調査に関連のある専門分野の教授又は准教授 若干人
- 四 施設部計画課長
- 五 発掘調査地に関連のある部局の事務部の長

(部会長)

第11条 部会長は、室長をもって充てる。

2 部会長は、調査部会の会務を掌理する。

(委嘱)

第12条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員は、室長が委嘱する。

(任期)

第13条 第7条第1号から第3号まで並びに第10条第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(幹事)

第14条 運営委員会に幹事を置き、施設部計画課長をもって充てる。

(事務)

第15条 調査室の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程（平成16年規第151号）の定めるところによる。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、調査室の組織及び運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成6年5月17日から施行する。
- 2 東北大学埋蔵文化財調査委員会規程（昭和58年規第38号）は、廃止する。
- 3 東北大学公印規程（昭和46年規第17号）の一部を次のように改正する。

[次のよう] 略

附 則（平成16年4月1日規第207号改正）

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成18年4月26日規第80号改正）

- 1 この規程は、平成18年4月26日から施行し、改正後の国立大学法人東北大学埋蔵文化財調査室規程の規定は、平成18年4月1日から適用する。
- 2 平成18年4月1日（以下「適用日」という。）の前日にセンター長の任にある者は、適用日において改正後の第4条第3項の規定により室長となったものとみなし、その任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成18年5月16日までとする。

附 則（平成19年4月1日規第76号改正）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会委員名簿 (2011年度)

委員長	室 長 (文学研究科 教授)	阿子鳥 香
委員	施設整備・運用委員会川内キャンパス整備委員会委員 (東北アジア研究センター 教授)	佐藤 源之
	施設整備・運用委員会青葉山キャンパス整備委員会委員 (環境科学研究科 准教授)	坂口 清敏
	施設整備・運用委員会早稲キャンパス整備委員会委員 (加齢医学研究所 教授)	石岡 千加史
	施設整備・運用委員会片平キャンパス整備委員会委員 (学術資源研究公開センター 准教授)	永田 英明
	施設整備・運用委員会雨宮キャンパス整備委員会委員 (農学研究科 教授)	岡分 牧衛
	文学研究科 教授	大藤 修
	文学研究科 教授	柳原 敏昭
	文学研究科 准教授	鹿又 喜隆
	理学研究科 教授	藤巻 宏和
	工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
	学術資源研究公開センター 教授	柳田 俊雄
	東北アジア研究センター 教授	平川 新
	施設 部長	西川 和慶
幹事	施設部 計画課長	川田 裕

3. 東北大学埋蔵文化財調査室運営委員会調査部会委員名簿 (2011年度)

委員長	室 長 (文学研究科 教授)	阿子鳥 香
委員	文学研究科 教授	大藤 修
	文学研究科 教授	柳原 敏昭
	文学研究科 准教授	鹿又 喜隆
	理学研究科 教授	藤巻 宏和
	工学研究科 准教授	飛ヶ谷 潤一郎
	学術資源研究公開センター 教授	柳田 俊雄
	東北アジア研究センター 教授	平川 新
	埋蔵文化財調査室 文化財調査員 (特任准教授)	藤沢 敦
	埋蔵文化財調査室 文化財調査員 (専門職員)	柴田 恵子
	埋蔵文化財調査室 文化財調査員 (専門職員)	菅野 智則
	施設部 計画課長	川田 裕

4. 東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

(東北大学埋蔵文化財調査年報)

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報1	1985	昭和58年度(1983年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第1地点(NM1)	
		仙台城跡二の丸第2地点(NM2)	
東北大学埋蔵文化財調査年報2	1986	仙台城跡二の丸第3地点(NM3)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		昭和59年度(1984年度)事業概要	
		青葉山B遺跡第1次調査(AOB1)	
東北大学埋蔵文化財調査年報3	1990	青葉山B遺跡第2次調査(AOB2・H称AOP)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		青葉山E遺跡第1次調査(AOE1)	
		昭和60年度(1985年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報4・5	1992	仙台城跡二の丸第6地点(NM6)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		宮ノ口遺跡第1次調査(TM1)	
		西ノ口遺跡1976年考古学研究室による調査(TK)	
		研究編-東北地方における近世宮室と陶磁器をめぐる問題ほか	
		昭和61年度(1986年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報6	1993	昭和62年度(1987年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第4地点(NM4)	
東北大学埋蔵文化財調査年報7	1994	仙台城跡二の丸第7地点(NM7)	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第8地点(NM8)	
東北大学埋蔵文化財調査年報8	1997	昭和63年度(1988年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第5地点(NM5)	
		平成1年度(1989年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報9	1999	仙台城跡二の丸第5地点(NM5)付帯施設部分	東北大学埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第5地点(NM5)調査成果の検討	
		仙台城跡二の丸北方家原地区第5地点(BK5)	
東北大学埋蔵文化財調査年報10	1998	川波農場西遺跡第1地点(KW1)	東北大学埋蔵文化財調査センター
		平成2年度(1990年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第9地点(NM9)	
東北大学埋蔵文化財調査年報11	1998	平成3年度(1991年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査センター
		仙台城跡二の丸第10地点(NM10)	
		西ノ口遺跡第2次・3次調査(TM2・TM3)	
東北大学埋蔵文化財調査年報12	1998	研究編-仙台城二の丸跡の考古学的調査-	東北大学埋蔵文化財調査センター
		平成4年度(1992年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第13地点(NM13)	
東北大学埋蔵文化財調査年報13	1999	青葉山地区分有調査	東北大学埋蔵文化財調査センター
		研究編-招馬藩における近世農業生産の展開	
		平成5年度(1993年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報14	1999	仙台城跡二の丸第12地点(NM12)	東北大学埋蔵文化財調査センター
		仙台城跡二の丸第14地点(NM14)	
		青葉山E遺跡第2次調査(AOE2)	
東北大学埋蔵文化財調査年報15	2000	平成6年度(1994年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査センター
		仙台城跡二の丸第15地点(NM15)	
		青葉山E遺跡第3次調査(AOE3)	
東北大学埋蔵文化財調査年報16	2001	平成7年度(1995年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査センター
		仙台城跡二の丸第11地点(NM11)	
		仙台城跡二の丸北方家原地区第4地点(BK4)	
東北大学埋蔵文化財調査年報17	2001	青葉山E遺跡第4次調査(AOE4)	東北大学埋蔵文化財調査センター
		研究編-東北大学構内(仙台城二の丸跡)遺跡出土建築資料の材質と製作技法	
		平成8年度(1996年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報18	2001	仙台城跡二の丸北方家原地区第6地点(BK6)	東北大学埋蔵文化財調査センター
		青葉山E遺跡第5次調査(AOE5)	
		西ノ口遺跡第4次調査(TM4)	
東北大学埋蔵文化財調査年報19	2001	平成9年度(1997年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査センター
		仙台城跡二の丸第16地点(NM16)	
		青葉山E遺跡第6次調査(AOE6)	

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報16	2001	平成10年度(1998年度)事業概要 研究編-福アルコール含浸法における予備実験	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報17	2002	平成11年度(1999年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報18	2005	平成12年度(2000年度)事業概要 仙台城跡二の丸第17地点(NM17)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第1分冊	2006	平成13年度(2001年度)事業概要 芦ノ口遺跡第5次調査(TM5) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第2分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第3分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 木簡・墨神ある木製品	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第4分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) その他の遺物	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第5分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 分析・考察	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報20	2006	平成14年度(2002年度)事業概要 仙台城跡一の丸北方武家屋敷地区第8地点(BK8) 青葉山丘遺跡第7次調査(AOE7) 青葉山丘遺跡第8次調査(AOE8)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報21	2007	平成15年度(2003年度)事業概要 仙台城跡一の丸北方武家屋敷地区第9地点(BK9) 芦ノ口遺跡第6次調査(TM6)	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報22	2008	平成16年度(2004年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報23	2009	平成17年度(2005年度)事業概要 平成18年度(2006年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報24	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点(BK10) 青葉山新キャンパス地区試掘調査	東北大学埋蔵文化財調査室

〈東北大学埋蔵文化財調査室調査報告〉

シリーズ名	書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点 -仙台市高速鉄道東西線橋脚補償関係調査報告書-	2011	東西線橋脚関係埋蔵文化財調査の概要	東北大学埋蔵文化財調査室
			仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点(BK11) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点(BK12) 川内地区の松岡記載人名の検討 川内地区における江戸時代の道路の復元	

〈東北大学埋蔵文化財調査室年次報告〉

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度(2007年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度(2008年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009	2012	平成21年度(2009年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010	2012	平成22年度(2010年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011	2013	平成23年度(2011年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室

東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011

平成25年3月29日

発行 東北大学埋蔵文化財調査室
〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1
TEL 022 (217) 4995

印刷 株式会社 東北プリント
TEL 022 (263) 1166

Annual report in fiscal year 2011

**Archaeological Research office on the Campus,
Tohoku University**